

京都府立京都八幡高等学校 介護福祉科

1 設置者に関する情報

① 設置者の名称及び主たる事務所の所在地並びに連絡先

京都府、京都市下京区中堂寺命婦町1-10
京都産業大学むすびわざ館
京都府教育委員会 高校教育課

2 福祉系高等学校等に関する情報

① 名称、住所及び連絡先

京都府立京都八幡高等学校 北キャンパス
京都府八幡市男山吉井7
TEL. 075-981-3508
(介護福祉科 設置) 南キャンパス
京都府八幡市内里柿谷16-1
TEL. 075-982-5666

② 福祉系高等学校等の校長の氏名 京都府立京都八幡高等学校 校長 池辺 純次

③ 開設年月日 平成21年3月27日

④ 学則等 別紙1

⑤ 施設設備の概要(図書蔵書数を含む)(図書室蔵書21,245冊)
別紙2

3 養成課程に関する情報

① 養成課程の教育課程表 別紙3

② 定員 30名

③ 入学までの流れ(募集、申込、資料請求) 京都府教育委員会 HP

④ 費用

入学料 5,650円、諸費・預かり金(1年次 21,830円)、(2年次 19,060円)(3年次 18,957円) 制服約 58,000円、体操服約 13,000円、靴類 4,500円、実習服 21,300円、教科書(1年次 19,107円)、研修旅行代 90,000円、国家試験関連約 16,000円

⑤ 教員数、科目別担当教員名 福祉科教員 10名、関連教科 2名

教諭 井上 京子 「介護福祉基礎」「コミュニケーション技術」「生活支援技術」
「介護総合演習」「介護実習」「社会福祉基礎」「介護過程」
「こころとからだの理解」

教諭 木村明日香 「介護福祉基礎」「コミュニケーション技術」「生活支援技術」
「介護総合演習」「介護実習」「社会福祉基礎」「介護過程」
「こころとからだの理解」

教諭 児玉 智明 「介護福祉基礎」「コミュニケーション技術」「生活支援技術」
「介護総合演習」「介護実習」「社会福祉基礎」「介護過程」
「こころとからだの理解」

教諭 熊谷 仁志 「介護福祉基礎」「コミュニケーション技術」「生活支援技術」
「介護総合演習」「介護実習」「社会福祉基礎」「介護過程」
「こころとからだの理解」

教諭 柏原真由美 「介護福祉基礎」「コミュニケーション技術」「生活支援技術」
「介護総合演習」「介護実習」「社会福祉基礎」「介護過程」
「こころとからだの理解」

教諭 橋本 航樹 「介護福祉基礎」「コミュニケーション技術」「生活支援技術」
「介護総合演習」「介護実習」「社会福祉基礎」「介護過程」
「こころとからだの理解」

教諭 登尾 早紀 「介護福祉基礎」「コミュニケーション技術」「生活支援技術」
「介護総合演習」「介護実習」「社会福祉基礎」「介護過程」
「こころとからだの理解」

講師 枝常 祐子 「生活支援技術」「社会福祉基礎」「介護過程」

講師 小澤 一哉 「コミュニケーション技術」「社会福祉基礎」「介護過程」

教諭 竹花 惇 「現代社会」

教諭 橋本 弓恵 「家庭基礎」

医療的ケアを担当する教員 鈴木 理恵子 「生活支援技術（医療的ケア）」

⑥使用教材

「新・介護福祉士養成講座」10巻（中央法規出版）
「社会福祉基礎」「介護福祉基礎」「生活支援技術」「こころとからだの理解」
「コミュニケーション技術」「介護過程」（実教出版）

⑦その他の教材

「介護職員等による喀痰吸引・経管栄養研修テキスト」
「介護福祉士国家試験らくらく暗記マスター2022」
「介護福祉士国家試験模擬問題集 2022」（中央法規出版）
デイリーコンサイス国語辞典 第6版（三省堂）

⑧介護実習施設等の名称、住所及び事業内容 別紙4

⑨介護実習の内容及び特徴

実施 学年	実習 区分	実習施設	日数
1年	I	デイサービス・デイケアセンター(見学)	2時間
	I	デイサービスセンター・デイケアセンター	4日間
	I	デイサービスセンター・デイケアセンター	9日間
2年	I	特別養護老人ホーム・介護老人保健施設・グループホーム	10日間
	II	特別養護老人ホーム・介護老人保健施設・グループホーム	12日間
3年	II	特別養護老人ホーム・介護老人保健施設	22日間

○学年毎の実習内容

介護実習の内容については、「福祉系高等学校等の設置及び運営に係る指針」（19文科初第1403号・厚生労働省社援発第0328004号平成20年3月28日）の規定に沿って行う。

上記指針に定められた趣旨を踏まえ、特定の施設・事業の種別に片寄ることのないよう高齢者を対象とした施設で実習を行う。また、多様な介護現場において個別ケアが体験・学習できるように、訪問介護サービス・小規模多機能型居宅介護施設・グループホームでの実習を行い、多様な介護現場で介護に関する知識と技術の習得をめざす。

<第1学年>

高齢者施設の現場を実際に見学して介護活動の概要を学び、対象への接し方を学ぶ。

◇介護実習の内容

- ・事前指導（介護総合演習）：実習の意義・目標の理解
（施設概要、実習諸記録の書き方、実習日程・日課、施設までの交通機関、実習中の礼儀作法を改めて認識し、実習への意識高揚とともに人間的成長をめざす。）
- ・事前訪問：目標達成のため、各自の実習目標や方法の検討
（実習指導者から施設概要や利用者の状況等、また、職種別業務分掌、勤務体制等の説明を受け、生活環境や施設生活、職員の業務等を理解する。）
- ・現場実習：利用者とのコミュニケーション、生活環境・介護職の理解
（利用者の日常生活全般：起居移動・食事・排泄・清潔・整容・更衣の観察から、利用者ニーズの個別性を確認し、指導を受けながら、介護の初歩的・基本的な援助活動を経験する。多職種との連携、会議やカンファレンス等の見学をする。）
- ・施設内反省会：実習目標への到達度の評価、課題の発見等について実習指導者から指導を受ける。
- ・実習報告・反省会（介護総合演習）：実習総括
（実習目標に沿って、すべての実習施設毎での体験を発表し、振り返りながら、意見交換をして実習目標への到達度を評価しあい、次の実習へのステップとする。）

<第2学年>

高齢者施設での現場実習を通して介護活動の実際を学び、対象への具体的・個別的な援助方法を学ぶ。

◇介護実習の内容

- ・事前指導（介護総合演習）：実習の意義・目標の理解
（施設概要、実習諸記録の書き方、実習日程・日課、施設までの交通機関、実習中の礼儀作法を改めて認識し、実習への意識高揚とともに人間的成長をめざす。）
- ・事前訪問：目標達成のため、各自の実習目標や方法の検討
（実習指導者から施設概要や利用者の状況等、また、職種別業務分掌、勤務体制等の説明を受け、生活環境や施設生活、職員の業務等への理解を深める。）
- ・現場実習：利用者とのコミュニケーション、生活環境・介護職の理解
（利用者の日常生活全般：起居移動・食事・排泄・清潔・整容・更衣の観察から、利用者ニーズの個別性を確認し、指導を受けながら援助活動を経験し、介護の初歩的・基本的な技術を習得する。介護過程の展開の基本的な方法について学ぶ。多職種との連携、会議やカンファレンス等に参加させる。）
- ・施設内反省会：実習目標への到達度の評価、課題の発見等について実習指導者から指導を受ける。
- ・実習報告・反省会（介護総合演習）：実習総括
（実習目標に沿って、すべての実習施設毎での体験を発表し、振り返りながら、意見交換をして実習目標への到達度を評価しあい、次の実習へのステップとする。）

<第3学年>

高齢者施設での現場実習を通してこれまで学んできた知識・技術を活用し、介護計画の作成から実践までを利用者との継続的な関わりの中で実践する。

◇介護実習の内容

- ・事前指導（介護総合演習）：実習の意義・目標の理解
（施設概要、実習諸記録の書き方、実習日程・日課、施設までの交通機関、実習中の礼儀作法を改めて認識し、実習への意識高揚とともに人間的成長をめざす。）

- ・事前訪問：目標達成のため、各自の実習目標や方法の検討
（実習指導者から施設概要や利用者の状況等、また、職種別業務分掌、勤務体制等の説明を受け、生活環境や施設生活、職員の業務等を理解する。）
- ・現場実習：利用者とのコミュニケーション、生活環境・多職種協働への理解
（利用者の日常生活全般：起居移動・食事・排泄・清潔・整容・更衣の観察から、利用者のニーズの個別性を確認し、指導のもと介護計画の作成から実践・修正までを実践する。これまでに習得した介護技術を活用し、場に応じた介護を実践する。
多職種との連携、会議やカンファレンス等に参加し自らの考えを発言する。）
- ・施設内反省会：実習目標への到達度の評価、課題の発見等について実習指導者から指導を受ける。
- ・実習報告・反省会（介護総合演習）：実習総括
（実習目標に沿って、すべての実習施設毎での体験を発表し、振り返りながら、意見交換をして実習目標への到達度を評価しあい、適切な介護サービスが提供できるよう、自らを振り返る。）

4 実績に関する情報

- ① 卒業生の延べ人数 229 名
- ② 卒業者の進路の状況（令和2年度介護福祉科卒業生 22 名）
（就職先の施設種別、卒業者のうちの就職者数、進学先の学校種別及び進学者数）
 - ・就職者数と就職先の施設種別
特別養護老人ホーム 10 名、介護老人保健施設 1 名、障害者支援施設 1 名
計 12 名
 - ・その他 3 名
 - ・進学先の学校種別及び進学者数
四年制大学 3 名（福祉系 2 名）
短期大学 1 名
専門学校 3 名